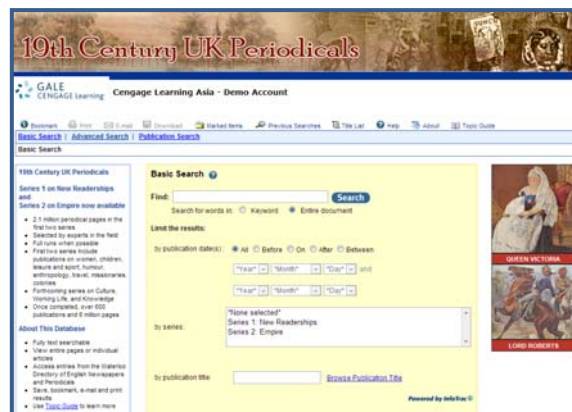


19 世紀イギリス雑誌コレクション集成 ウェブ版
 パート 2—帝国：旅行、人類学、経済学、宣教、植民地
 19th Century UK Periodicals

Part II : Empire: Travel and Anthropology, Economics, Missionary & Colonial

センゲージラーニング株式会社

本データベースは、19 世紀にイギリス本国と海外植民地で刊行された夥しい数の雑誌の中から学術的価値の高いものを精選し、電子化してオリジナルのページイメージにて提供するものです。今回ご紹介するパート 2 では「帝国」というテーマの下、約 90 タイトルの雑誌が選ばれています。収録されているのはすべて 19 世紀に創刊された雑誌で、中には 20 世紀まで発行が続いたものもありますが、その場合でも収録されている記事は 1900 年までです。収録された雑誌の多くは、オリジナル版が発行された後、マイクロフィルムや紙媒体で復刊されたことのないものです。そのため本データベースは、19 世紀イギリスの雑誌をまとまった形で提供するコレクションとしては随一のものであります。



海外植民地の獲得に伴って、植民地やその周辺地域に関する知識が求められるようになり、その需要に応えるために多くの雑誌が発行されました。その中で、キリスト教伝道のために宣教師を海外に派遣した伝道団体が発行した雑誌は、宣教という第一目的を超えて、異文化の報告書として読むこともできます。本データベースには、英国聖公会宣教師教会、バプテスト教会、ロンドン伝道協会、信仰普及協会、福音普及協会、医療伝道会、スコットランド自由教会、アイルランド長老派教会、救世軍など、様々な団体の機関紙が収録されています。

探検家の活動も植民地と切り離すことができません。アフリカ、オーストラリア、中央アジアでの探検は、客観的な記録としてだけでなく、大衆読者向けの冒険物語としても享受されました。

植民活動の産物として忘れてはならないのが、学問・科学の動向です。大英帝国なくしてイギリスにおける東洋学、インド学の成立は考えられません。また、海外産の植物の収集、異民族への関心は、植物学や人類学などの学問の成立を促しました。本データベースには、王立アジア学会、ロンドン人類学会など学会が発行した雑誌が収録されています。

交通・通信における技術革新による流通コストの低減から、イギリス本国と植民地間の情報の流通が増え、移民により植民地人口が増大するにつれ、植民地出身の作家やジャーナリストが多数生まれ、19 世紀の後半には植民地で雑誌を発行する環境が整いました。本データベースでは、インド、南アフリカ、オーストラリア、カナダ、アイルランドで発行された雑誌も収録します。

◆主要収録雑誌◆

【伝道協会誌】

伝道協会発行の雑誌は、非西洋の文化と宗教をイギリス人読者に伝えました。人類学雑誌が掲載した植民地の情報には、キリスト教宣教師発行の雑誌を出所とするものも多く含まれました。宣教会は児童向けの雑誌も発行しました。

✓ All the World

救世軍の活動を記録。

✓ Annals of the Propagation of the Faith

信仰普及協会の年報。

✓ **Christian Spectator**

Boy's Own Paper, Girls' Own Paper(パート1 所収)を発行した宗教叢書協会(Religious Tract Society)が発行。

✓ **Church Missionary Gleaner**

英国聖公会宣教教会(Church Missionary Society)が発行。

✓ **Friend of India**

バプテスト教会が発行。インド人に西洋の宗教、文学、芸術を教え、イギリス人にインドの歴史と文化を教えることを目的とした、自由主義系の雑誌。インドの風習、女兒殺し、サティ(妻の殉死)に反対するキャンペーンを展開した。

✓ **Home and Foreign Missionary Record for the Free Church of Scotland**

スコットランド自由教会が発行。

✓ **Medical Missions at Home and Abroad**

医療伝道会が発行。

✓ **Missionary Herald**

バプテスト教会が発行。

✓ **Missionary Magazine and Chronicle**

ロンドン伝道協会(London Missionary Society)の機関紙。

✓ **Missionary Notices**✓ **Monthly Record of Church Missions in connection with the Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts**

福音普及協会(Society for the Propagation of the Gospel)が発行。

✓ **Juvenile Missionary Magazine**✓ **Wesleyan Juvenile Offering**

【学会誌 ～東洋学、植物学、地質学、民族学、人類学、地理学～】

海外植民地の獲得によって、アジアやアフリカは学問の対象ともなりました。18世紀半ば、イギリスがインドをめぐるフランスとの戦いに勝利を収めると、ベンガルにインド研究の拠点を設立します。植民地各地で動植物の収集と分類、地質試料の収集と検証、気象データの収集と評価が行われ、植物学、地質学などの学問・科学の動向にも影響を及ぼしました。

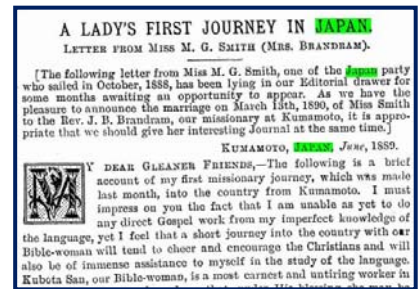
東洋学

✓ **Transactions of the Asiatic Society of Bengal**✓ **Journal of the Asiatic Society of Bengal**

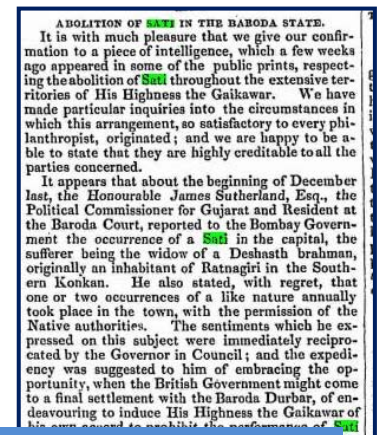
1784年に設立されたベンガル・アジア協会の機関誌。イギリス東洋学の基礎を築いた。

✓ **Transactions of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland**

イギリスのみならずヨーロッパの東洋学を代表する学会、王立アジア協会(1823年設立)の機関紙として有名。



宣教師夫人の熊本訪問 (June 1, 1890, Church Missionary Gleaner)



「パローダ州におけるサティの廃止」
(July 9, 1840, The Friend of India)

植物学

✓ **Botanical Magazine**

紳士、淑女、園芸家が自分の栽培する植物について科学的知識を得られるように、植物学者ウィリアム・カーティス(William Curtis)が創刊。

地質学

✓ **Geologist**✓ **Proceedings of the Geological Society of London**✓ **Transactions of the Geological Society of London**

民族学・人類学

✓ **Annual Report of the British & Foreign Aborigines' Protection Society**✓ **Voice of Pity for South America**✓ **Friend of India**✓ **Missionary Herald**

ロンドン民族学協会(Ethnological Society of London)は、人類学研究を目的としたイギリス最初の学会。先住民保護協会は福音主義の立場から奴隷貿易に反対した人道主義団体、先住民保護協会(Aborigines Protection Society)の附属機関として1843年に設立された。民族学協会の主要メンバー、ジェームズ・プリチャード(James C. Prichard)は、人類は共通の祖先をもち、人種の差異は人類という単一家族の中の多様性であると論じた。プリチャードに代表される人類学思想は、先住民保護協会のAnnual Reportのほか、ここに挙げた伝道協会発行の雑誌でも展開されている。

✓ **Anthropological Review**✓ **Memoirs of the Anthropological Society of London**✓ **Popular Magazine of Anthropology**

ジェームズ・ハント(James Hunt)が創設したロンドン人類学会(Anthropological Society of London)は、経験主義的で客観性を重んじる人類学研究を追求し、様々な学問的論争を展開した。ここに挙げた雑誌はすべてハントが編集に携わったものである。

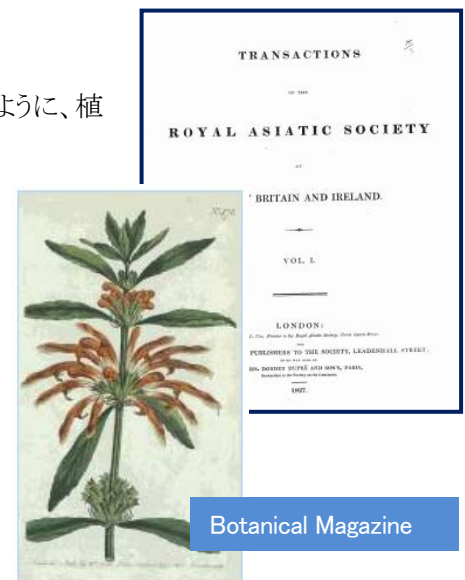
地理学

✓ **Edinburgh Journal of Natural and Geographical Science**✓ **Journal of the Manchester Geographical Society**✓ **Journal of the Tyneside Geographical Society**✓ **Report of the Liverpool Geographical Society**✓ **Scottish Geographical Magazine**✓ **Truth Seeker's Oracle, The, and Scriptural Science Review**

【探検・旅行誌】

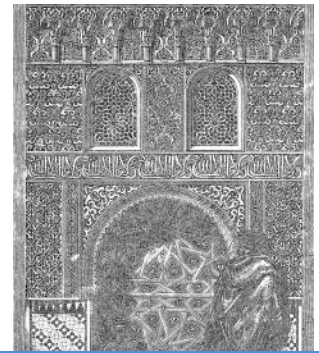
✓ **Proceedings of the Association for Promoting the Discovery of the Interior Parts of Africa**

アフリカ協会(African Association)は、ジョゼフ・バンクス(Joseph Banks)らにより1788年に創設された。18世紀後半から19世紀初頭の一連の西アフリカへの探検を後援し、その活動内容が本誌に記録されている。



Botanical Magazine

- ✓ **Illustrated Travels: A Record of Discovery, Geography & Adventure**
- ✓ **Our Ocean Highways: The Monthly Geographical Record and Travellers' Register**
- ✓ **Scottish Geographical Magazine**
イギリス本国のメディアはアフリカ、オーストラリア、中央アジアでの探検の様子を盛んに書き立て、大衆の興味を喚起した。探検家の中から国民的英雄も生まれた。これらの雑誌には、イギリスの一般読者向けに書かれた探検の物語の数々が含まれている。
- ✓ **Journal of Travel and Natural History**
- ✓ **Stories of Pluck. A high class weekly library of adventure at home and abroad, on land and sea**
- ✓ **Tourist**
- ✓ **Vacation Tourists and Notes of Travel**



「アルハンブラ、王女の塔入口」
(Illustrated Travels)

【女性誌】

- ✓ **New Zealand Graphic and Ladies Journal**
- ✓ **Ladies' Journal: Devoted to Literature, Fashion, Domestic Matters &c**

【諷刺漫画誌】

- ✓ **Melbourne Punch**
- ✓ **Queensland Punch**
イギリスの Punch を模倣してオーストラリアで発行された諷刺漫画誌。



「タスマニアの国会議員」
(November 5, 1857, Melbourne Punch)

【インド発行誌】

- ✓ **Calcutta Review**
- ✓ **Oriental Observer**
植民地の雑誌は、現地に優れた作家が少ないのと、植民地のイギリス人がイギリス本国の作品を求めたことから、イギリス本国の作品を再版する形で出版された。しかし、ここに挙げたカルカッタ発行の二誌は、インド生まれのイギリス人の文学作品を多数掲載している。
- ✓ **Bengal Catholic Expositor**
- ✓ **Calcutta Review**
- ✓ **Madras Journal of Literature and Science**
- ✓ **Oriental Observer**

【南アフリカ発行誌】

- ✓ **Sam Sly's African Journal**
- ✓ **Cape Monthly Magazine**
多くの連載小説(無名作家から南アフリカ出身の白人作家など)を掲載
- ✓ **Cape Illustrated Magazine**
南ア植民地の詩作品の宝庫
- ✓ **Lantern**
- ✓ **Owl**

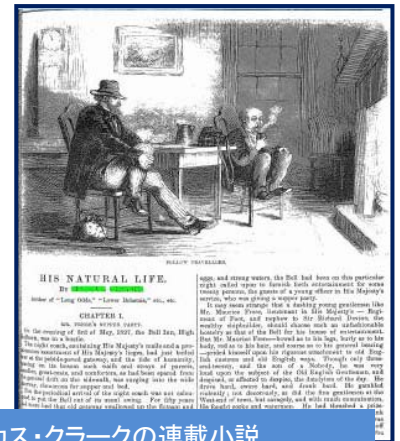
【オーストラリア発行誌】

✓ **Australian Journal**

主に連載小説や詩作品を掲載した文芸誌。一部の批評家から『レ・ミゼラブル』に匹敵すると評されるマーカス・クラーク (Marcus Clarke) の小説”His Natural Life”は 1870 年に連載開始された。

✓ **Sydney Quarterly Magazine**

オーストラリア文学の普及に努めた。

✓ **Adelaide Observer**✓ **Australasian**✓ **Australian Magazine of Contemporary Colonial Opinion**✓ **New South Wales Magazine**✓ **Sydney Quarterly Magazine**

マーカス・クラークの連載小説
”His Natural Life” (Australian Journal)

【カナダ発行誌】

✓ **Literary Garland and British North American Magazine**

アメリカの雑誌市場の影響を受けたカナダにあってカナダ独自の内容を追求した。スザンナ・ムーディ (Susanna Moodie) やキャサリン・パー・トレイル (Catharine Parr Traill) らの作家が寄稿。

✓ **Bystander**✓ **Canadian Journal**✓ **Canadian Naturalist and Geologist**✓ **Journal of Education for Upper Canada**✓ **New Dominion Monthly**✓ **Queens Quarterly**

【アイルランド発行誌】


✓ **Achill Missionary Herald and Western Witness**✓ **Missionary Herald of the Presbyterian Church in Ireland**

◆収録雑誌の選定方法◆

収録雑誌の選定には、Wellesley Index to Victorian Periodicals, Waterloo Directory of English Newspapers and Periodicals、Cambridge Bibliography of English Literature 3rd ed.のような書誌、ダイレクトリーの他、図書館目録を基にマスターリストを作成し、編集諮問委員によって、雑誌の影響力と学術的重要性を基準に、最終的に収録タイトルが選ばれました。

Alexandra Magazine and Woman's Social and Industrial Advocate	
Audience:	General
Publication Format:	Magazine/Journal
Full-Text Coverage:	May 01, 1864 - Sep 01, 1864
Frequency:	Unknown
Language:	English
Place of Publication:	London, England
Available Issues:	21

Headnote	Show Details
-----------------	------------------------------



The *Englishwoman's Journal* was started many years ago, at a time when very few people cared or wrote anything about the education or the work of our sex.... [T]hat periodical threaded the separate parts of the movements, brought the thinkers and the workers together and...it preserved a uniform tone of serious and sensible discussion.... The time has come when it appears desirable to secure the diffusion of practical principles over a larger class of society, and in a cheaper form. The starting of the *Alexandra Magazine* on a plan which, if not absolutely identical, was at least in close connection with the working aims of the older journal, has afforded this opportunity; and the two have been merged into one in the earnest hope that the change may be mutually advantageous; - that the joint periodical will, by reason of its greater cheapness, reach many homes into which the *Englishwoman's Journal* could not penetrate.... (*Englishwoman's Journal*, Sep 1864, p.257).

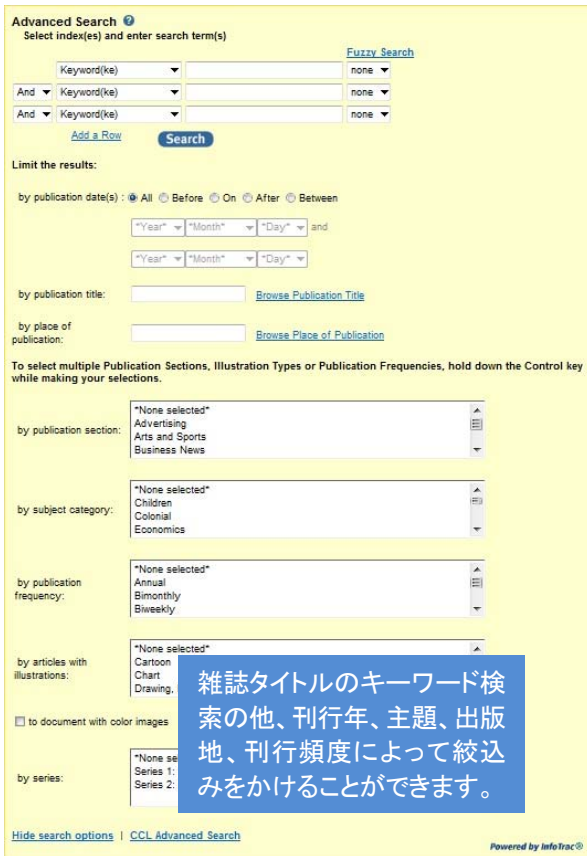
Waterloo Directory of English Newspapers and Periodicalsは、英米の図書館に所蔵されている雑誌の原本に当たって確認するという長年に亘る作業の結果、完成した定期刊行物のダイレクトリーです。創刊者名、編集者名、編集方針、刊行頻度、印刷部数、発行部数、価格、誌名変遷、ページ数や欄の数などを記録し、この種のものとしては最も信頼できる情報源と見なされています。本データベースに収録された雑誌の各種データは、このダイレクトリーに依拠しています。また、収録雑誌毎に、“Headnote”として本ダイレクトリーを出所とする解説記事が掲載されています。

【編集諮問委員】

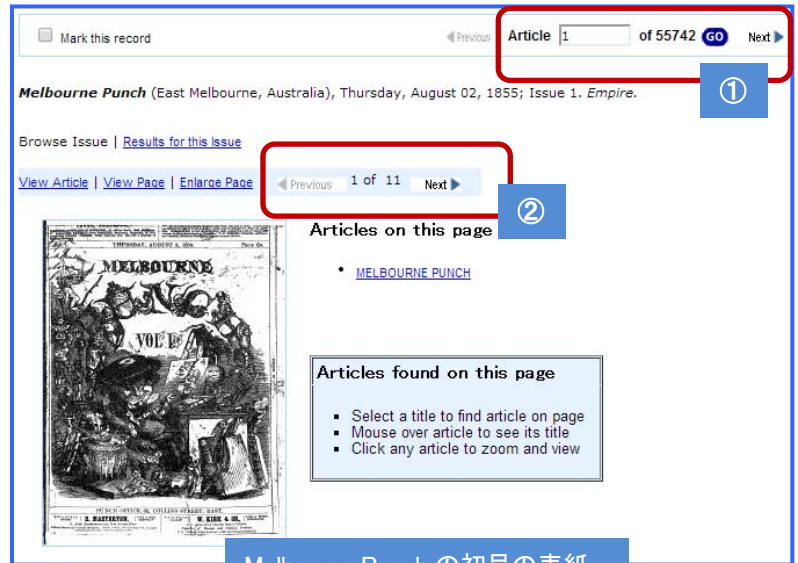
- ✓ Professor Joanne Shattock, University of Leicester (Series Editor)
- ✓ Professor Tim Alborn, Lehman College, CUNY
- ✓ Professor Peter Bailey, University of Manitoba
- ✓ Margaret Beetham, Manchester Metropolitan University
- ✓ Professor Clive Behagg, University College Chichester
- ✓ Robert Bud, Science Museum
- ✓ Dr. Diana Dixon, University College London
- ✓ Professor Felix Driver, Royal Holloway College
- ✓ Dr. Maire ni Fhlathuin, University of Nottingham
- ✓ Dr. Nicholas Hiley, University of Kent
- ✓ Dr. Leslie Howsam, University of Windsor, Ontario
- ✓ Professor Russell Jackson, University of Birmingham
- ✓ Dr. Leanne Langley, Goldsmiths, University of London
- ✓ Dr. James Livesey, University of Sussex
- ✓ Reverend John Lowerson, University of Sussex
- ✓ Dr. Peter Mandler, University of Cambridge
- ✓ Professor Simon McVeigh, Goldsmiths, University of London
- ✓ Professor Richard Price, University of Maryland
- ✓ Professor Solveig Robinson, Pacific Lutheran University
- ✓ Dr. Jonathan R. Topham, University of Leeds
- ✓ Professor Shearer West, University of Birmingham
- ✓ Dr. Richard Whatmore, University of Sussex

◆インターフェイス◆

【詳細検索画面】



【ページ表示画面】



①表示している記事が、検索でヒットした 55,742 件のうちの 1 件目の記事を含むページイメージであることを示しています。"Next"をクリックすると、次の検索結果の記事を含むページイメージに進むことができます。

②本号が 11 ページあり、その 1 ページ目を表示していることを示しています。"Next"をクリックすると、次のページに進むことができます。

【記事表示画面】



掲載商品のすべてのコンテンツと機能をお試しいただける 1 ヶ月の無料トライアルを受け付けております。掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 電子商品営業部 (電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06/gaivo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。